

2022年9月16日

DRA活動のさらなる国際貢献 ～「防災絵本100年計画」の挑戦～

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長

河田 恵 昭

講演内容

1. SDGsの意味を知っていますか？
2. なぜ、防災絵本なのか
3. 「防災絵本100年計画」とは
4. 絵本を「創る」よりも「普及」が難しい

**SDGsの意味
を知っていますか？**

2015年に国連がSDGsの意味を確定した時の論争

- Developmentをどのように解釈するかについて論争があった。
- 先進国は「発展」と解釈したい。
- 途上国は「開発」と解釈したい。
- そこで、もし「発展」とするならば、先進国は途上国に財政負担する義務が発生するので、それを避けて「開発」とした経緯がある。
- 日本は先進国であるから「発展」を目指す。

Sustainable Development Goals (SDGs)

持続可能な**開発**？あるいは**発展**？

Science Development (科学的**開発**)

- 社会生活
- 挑戦
- 勇気
- 無生物的
- **普遍性**
- 財源が必須

持続的開発**目標**
(主として、
経済的に貧しい国)

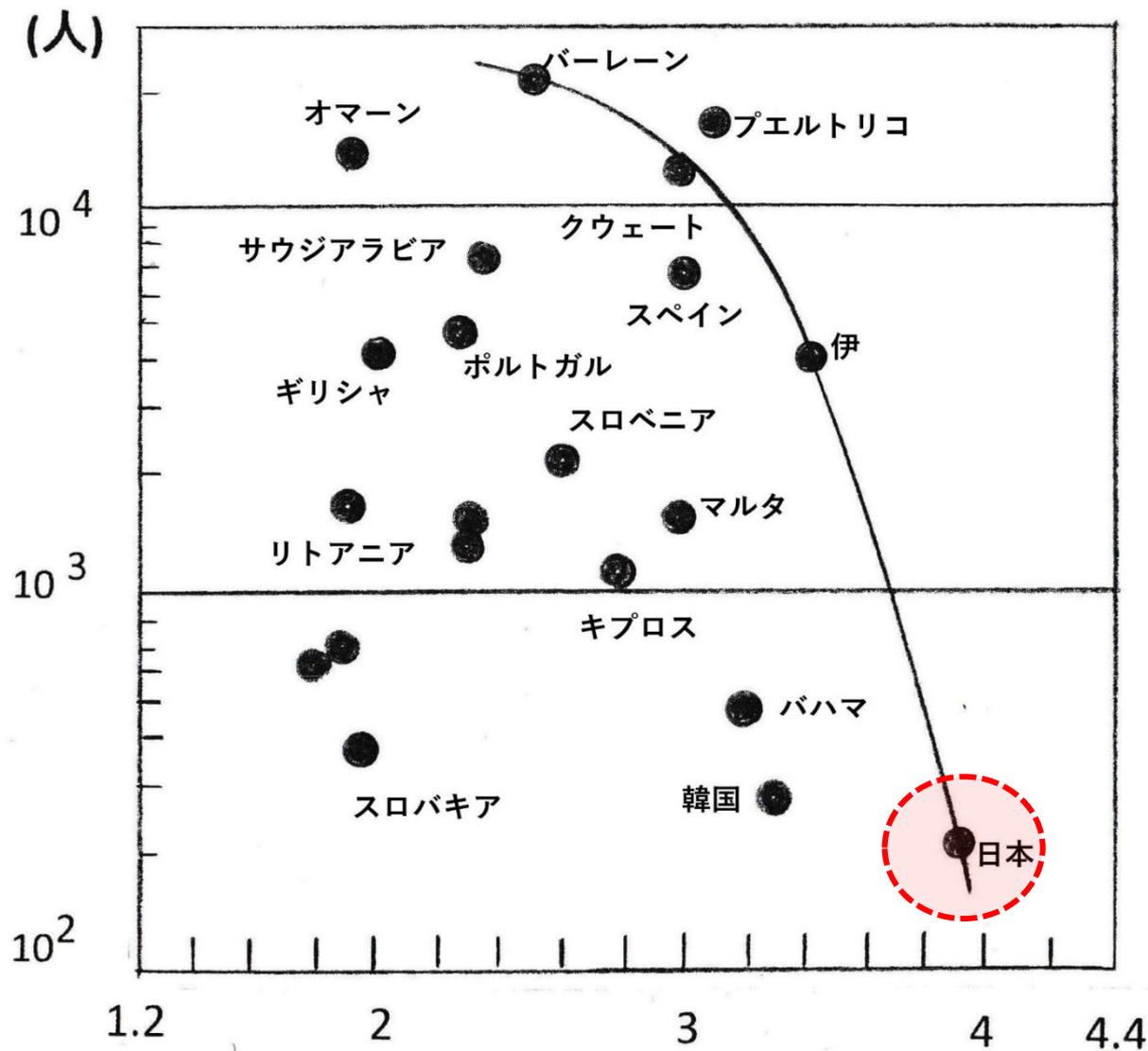
Culture Development (文化的**発展**)

- 日常生活
- 習慣
- 成長
- 生物的
- **地域性、歴史性**
- 低いコスト

持続的発展**目標**
(主として、
経済的に豊かな国)

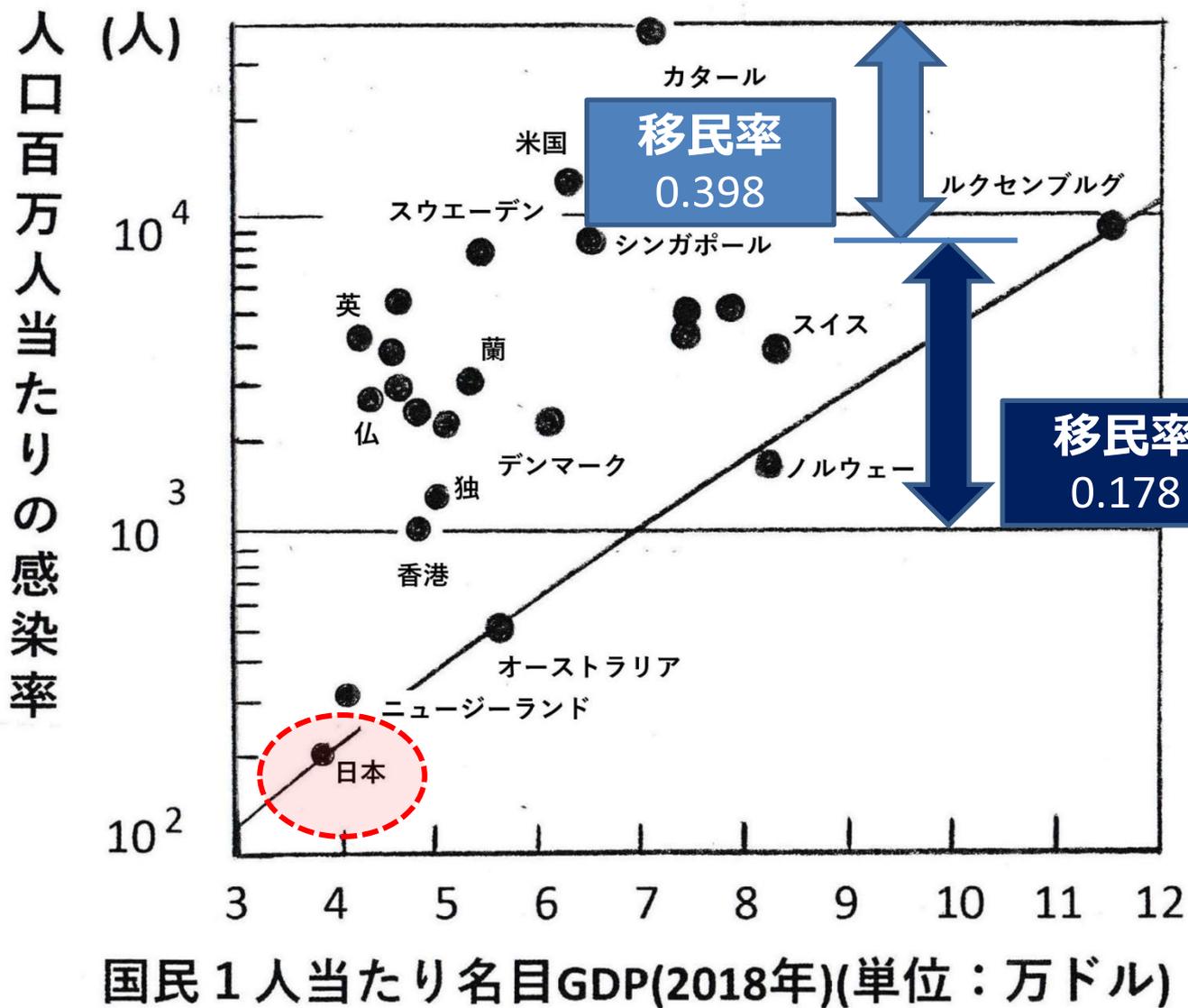


人口百万人当たりの感染率



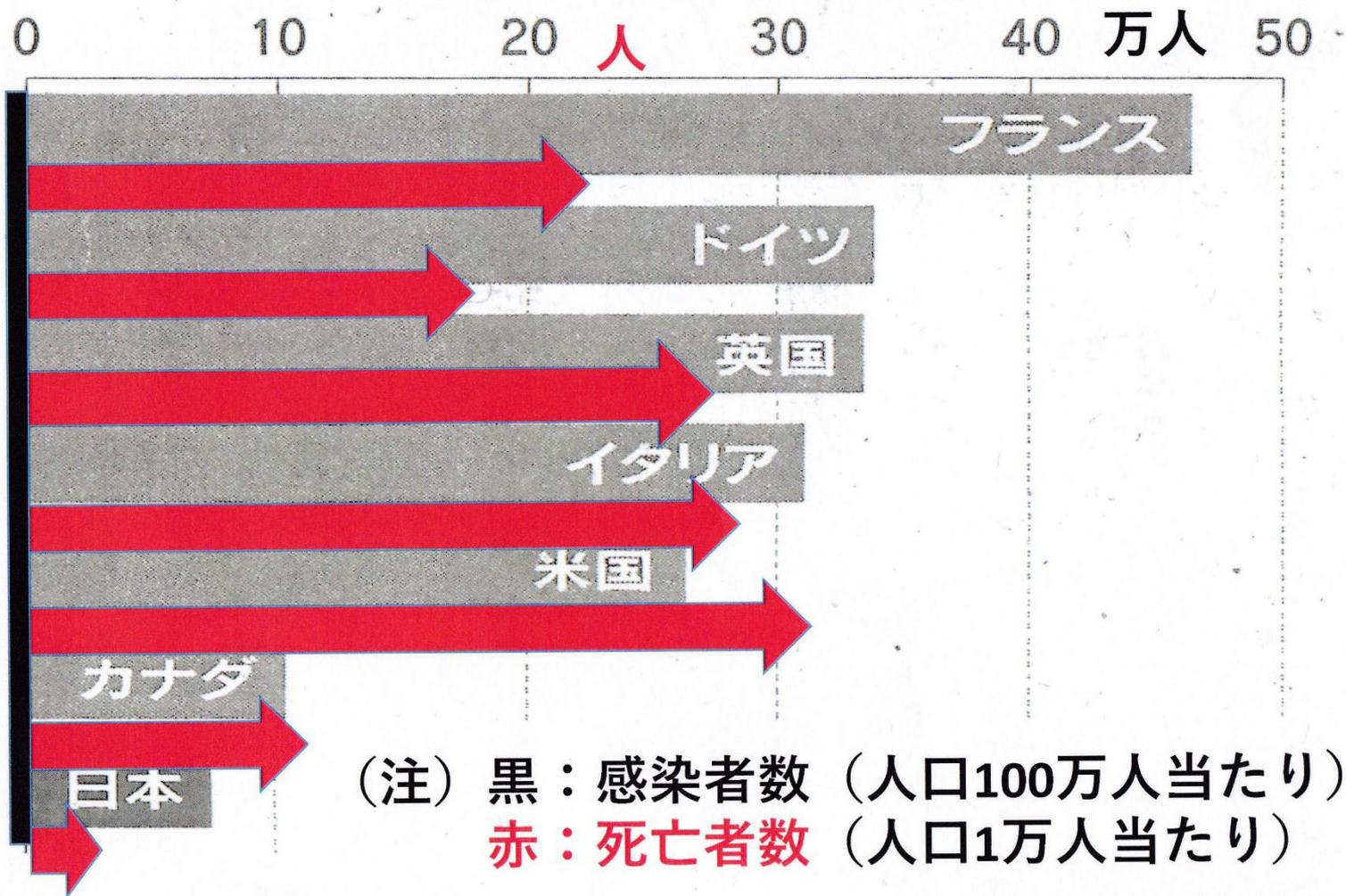
国民1人当たり名目GDP(2018年)(単位：万ドル)

文明的防災力を向上



文化的防災力を向上

新型コロナの累積感染者数、犠牲者数はG7で日本が最も少ない

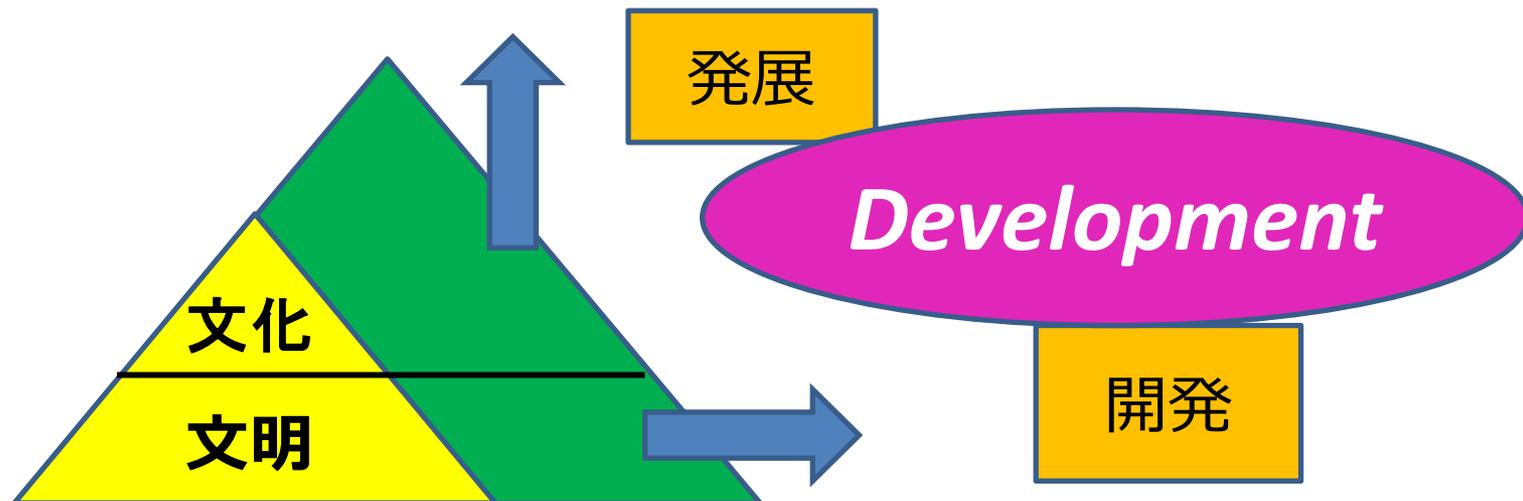


(注) 黒：感染者数 (人口100万人当たり)
赤：死亡者数 (人口1万人当たり)

2022年7月12日現在

防災力を大きくする

- 文明的防災力は、経済的に豊かになれば大きくなる……**普遍的**
- 文化的防災力は、社会習慣が成熟すれば大きくなる……**歴史的、地域的**



なぜSDGsの第1の目標が「貧困をなくそう」になったのか？

- 国際的には、1990年代から「**自然環境の改善**」と「**減災の推進**」の2つが目標になった。
- そして、環境が悪化すると災害が発生しやすくなることがわかった。
- だから、減災が統一目標になった。しかし、国連加盟国約200カ国中、災害が多発する国はその3分の1だから、「減災」で全加盟国の賛同を得るには難しく、「**災害に遭遇すると貧乏になる**」ので、「貧困をなくそう」が第1の目標になったといういきさつがある。

目標4：質の高い**防災**教育を

- 初等、中等教育では、基本的に「正解」のあることしか教えない。
- しかし、社会では圧倒的に「正解のない」問題が多い。
- だから、防災教育は基本的に実践的(具体的に答えを見つける)でなければならない。
- 「知識」ではなく「知恵」を教える必要がある。
- その一つが「防災絵本」の普及である。

なぜ、防災絵本なのか

防災絵本と小説・物語の違い

- 防災絵本では、そこで描かれた**教訓**が実生活で**役に立つ**という特長がある。それが行動を伴う災害文化になるためには、幼少の頃より、繰り返すほどと納得する必要がある。そうすると、本能に近くなると思われる。
- 小説・物語では、主人公になったつもりで体験、経験して、共感したり知らない世界を知ることができる。そこでは、人生で役に立つとか立たないという評価は不要である。あくまでも知識や知恵あるいは教養のレベルで蓄積される。

危ないと判断して逃げるには

- 私たちは危険な事象（たとえば災害）に遭遇すると、
①咄嗟に本能的に対応し、②少し遅れて、知識・知恵で判断して行動する。
- ①の場合、動物的な反応であるから、若者に比べて高齢者は鈍っていて、反応できなくなっている。
- 若者は「避難する」という行為を未経験であるから、まず何をすればよいかかわからない。
- 若者も高齢者も判断しようとしたとき、正常化のバイアスが働いて、「自分には関係がない」ことになる。
- 結局、どちらも避難しない。

災害文化は人間の本能を抑え 防災意識を育てる！

- 自分の先入観に支配されない。……前も何も起こらなかつたから、今回も大丈夫だ！

プロスペクト理論というバイアスに負けない。

- 危険の存在を認める。……目の前の危険を認めようとせず、私は大丈夫だ、何も心配しなくてよい！

正常化の偏見というバイアスに負けない。

二重過程理論（私たち人間は長かった旧石器時代に本能が育った。そして、現在も続く）

旧石器時代（約3万8千年前から約1万6千年前の約2万2千年間）

二重過程理論における 二つの思考システム

【システム1】

文化的対応

- すばやく自動的に働き、大雑把に取るべき方向性を判断する
- 感情的で、連想により直感的な対象評価を行う
- 具体的な事例やイメージにより事態を把握する

五感を
総動員

【システム2】

文明的対応

- 時間を要し、意識的に思考する。精緻な判断を志向する
- 理性的で論理に基づいた意識的な評価を行う
- 統計量や数値、抽象的なシンボルや言語により事態を把握する

知恵を総動員

優勢に機能するシステム I

ヒトは長い石器時代

を通して外敵からの攻撃や厳しい自然条件など、具体的で目に見える危機に直面し、その都度、“闘うか・逃げるか”、“取るか・拒むか”といった、素早い選択が求められてきた。その直感的な選択が適切で、生き延びることができた個体のみがパートナーと生殖し、子孫を残すことができた。そういう意味では、今を生きる現代人はシステム1による直感的サバイバーの末裔である。

システム2は高い認知負荷が必要

高い認知負荷をかけて判断する必要がない限り
(そして、選択肢が豊かな社会では特定の選択肢に
執着する必要はないので)、提供された情報は、実
際には人々のシステム1によって処理される。こ
のため、定量的なリスク評価から導かれたはずの
基準値が単純化され、基準値を超えたら危険、基
準値以内なら安全と、対象を白か黒かに分ける定
性的な判断となりやすい。

なぜ防災絵本か？（1）

★**もともと**絵本は幼児教育の主要な教材であり、最近の研究では、大人が人生を再考する好材料であることがわかっている。

★何かを日常の会話で「語り継ぐ」ことは、普通の習慣であり、絵本の題材で知らないことを知るようになり賢くなる。

★防災についての「**語り継ぐ**」絵本があれば、それを活用すれば、大人も子どもも賢くなり、私たちの生活文化になる。

なぜ防災絵本か？（2）

- ★絵本を各国語に翻訳し、人びとの手元に届けるので、世界中のたとえ貧しい国、貧しい家庭であっても語り継ぐことは可能である（多様性）。
- ★たとえ、子どもや大人が何らかの障害をもっている場合でも語り継ぐことによって平等に賢くなれる（包摂性）。
- ★こころが豊かになり、自助、共助、公助の考え方の理解を進め、社会の防災力の強化につながる。
- ★地球温暖化の進行で、これまで災害とほぼ無縁だった先進国（日米を除く）では、社会に防災の知恵がなく、この防災絵本が必ず役に立つ。

「防災絵本100年計画」

とは

災害語り継ぎのための「防災絵本100年計画」

1	語り継ぎ文の募集	Recruitment of telling live disaster lessons
2	応募作品の審査	Examination of application works
3	発表会	Exhibition
4	優秀作品の絵本化	Making picture and illustration of excellent works
5	多言語翻訳	Multi-lingual translation
6	絵本作成、pdf製作	Making picture books and pdf
	世界発信	The world sending
7	販売、幼児教育の教材	Selling and teaching at kindergarten
8	世界アーカイブ化	Making global archive

B O S A I 100年 えほん PROJECT

2022 始動！ 事業概要

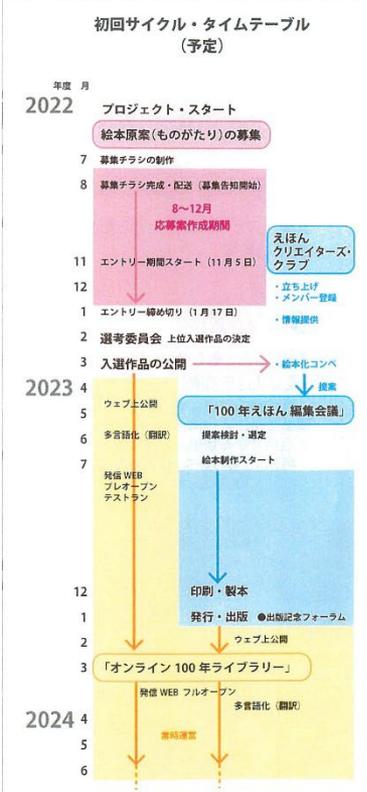
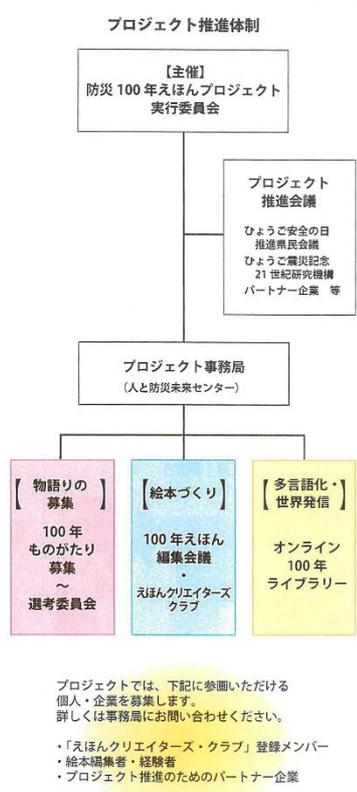


<p>「絵本」。 絵とことばがからみあい 大切なことをわかりやすく伝える世界</p> <p>この「絵本」の力を借りて 子どもから大人まで 「防災」の知恵を知り 命を守る行動を身につけるための プロジェクトが始動します</p> <p>目指すのは 100年先の未来まで防災の知恵を届け 世界の防災・減災に貢献すること</p>	<p>大雨が降り避難が呼びかけられても 人々が逃げないのはなぜ？ それは逃げるのが 日常の生活習慣になっていないから</p> <p>豊かな感性を育む幼児期に 大人から子どもに読み聞かせ 無意識のうちに身につく 大人になっても忘れない</p> <p>災害に遭遇しても負けない そんな災害文化の定着をめざす この壮大なプロジェクトに あなたも参加してみませんか？</p>
--	---

～絵本ので、災害文化の定着を～
防災 100 年えほんプロジェクト 実行委員会
事務局 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

B O S A I 100年 えほん PROJECT

防災 100 年えほんプロジェクト
2022 年スタート 第 1 期 (2022～2023 年度)
事業予定・推進体制



<https://bosai100nen-ehon.org> (予定)

防災 100 年えほんプロジェクト 事務局
(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 事業部運営課内)
メールアドレス：(新規設定予定)
〒651-0073 神戸市中央区臨海通 1-5-2 西館 5F TEL：078-262-5502

2022.7.12



「防災絵本づくり」を始めます。

防災 100 年えほんプロジェクト



プロジェクトの概要 (このプロジェクトは2年で1サイクルです。)

経緯：

2020年1月に神戸で開催した「2020 世界災害語り継ぎフォーラム」の公開フォーラムにおいて、河田恵昭人と防災未来センター長が、「災害文化を身につけるための基本となる防災教育の手法として防災絵本を制作することを提案。本プロジェクトは、これを具体化するものです。」

目的：

- ①災害文化の定着
わが国のみならず世界各国の幼児から高齢者まで全世代に役立つ防災の知恵を防災絵本により普及・啓発することにより、災害に負けない人々の生活習慣づくり(災害文化の定着)を目指します。
- ②世界の防災・減災に貢献
100年間継続させることを目標とし、多言語に翻訳のうえ、インソップ物語やグリム童話集に匹敵する数百冊からなる絵本集として世界に向けて発信します。
- ③SDGsの一端として実施
2030年までは、SDGs(持続可能な開発目標)の一端として、豊かな社会づくりを目指す活動と位置づけます。

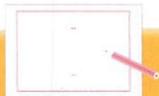
1 物語りの募集

「ものがたり」の募集

「100年先の未来まで伝えたい、防災絵本の原案(「ものがたり」)を募集します。

募集の概要 ※詳しくは募集要領をご確認ください。

- ・文字数：2,000字(原稿用紙5枚)まで
- ・年齢規定：応募時点で15歳以上であること
- ・応募点数：一人につき1作品
- ・言語：日本語のみ
- ・募集開始：2022年8月～
- ・応募期間：2022年11月5日(世界津波の日)～2023年1月17日(防災とボランティアの日)



「ものがたり」の選定

応募作品の中から優れた作品を選定し表彰するとともに、副賞をお渡しします。

入選作品はウェブサイトで公開するとともに、その中から数作品を絵本化します。

選考委員会
河田恵昭人と防災未来センター長他、数名の有識者での構成を予定しています。

選定の時期：
2023年2月頃を予定しています。

2 絵本づくり

「えほんクリエイター」の登録

入選作品を絵本化する作家を事前に募集し、「えほんクリエイターズ・クラブ」メンバーとして登録していただきます。

メンバーには、防災学習や情報共有の場を提供し、防災の学びを深めたり、絵本化コンペに備えていただきます。



河田 恵昭
人と防災未来センター 長
当プロジェクトの提唱者

あなたの大切な想いを物語りに託してください。素晴らしい絵本にして、世界に、未来に届けましょう！

絵本化コンペの実施

①絵本化の提案
「えほんクリエイターズ・クラブ」メンバーが入選作品の中から絵本化したい作品1点を選定、絵コンテ等によりプランを提案していただきます。

②コンペによる絵本プランの決定
編集者数名で構成する「100年えほん編集会議」により、実際に制作する作品を選定するとともに、編集担当者を決定します。
提案期間：2023年4月～6月(予定)
コンペ実施：2023年7月(予定)

3 公開・多言語化・世界発信



公開

入選した「ものがたり」をWEB上で公開します。

多言語翻訳

入選した「ものがたり」、制作した「えほん」を英訳します。

その他の言語は留学生等の協力を得て進めたり、また海外において自主翻訳して活用できる仕組みとします。

時期：「ものがたり」=2023年3月～
「えほん」=2024年1月～

WEBによる世界発信

「100年ものがたり&えほんライブラリー」

入選した「ものがたり」と制作された「えほん」について、誰でも無償で閲覧することができるよう、ウェブサイト上にライブラリーを設置し、日本語と英語で発信します。
また、このライブラリーを世界の方々の交流の場として活用します。

多言語ライブラリー開設時期：
2024年3月(予定)

「えほん」の編集・制作

「100年えほん編集会議」により選定されたクリエイターと編集者により、絵本の編集・制作に取り組みます。

制作時期：
2023年8月～12月(予定)

「えほん」の刊行

原稿が完成した絵本を印刷・製本し発行します。

時期：2024年1～2月頃(予定)



Mirai



Misaki



持続可能な防災・減災・縮災 の100年後の理想形

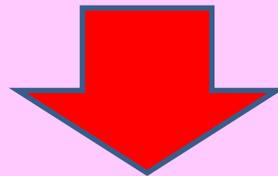
- 防災絵本（メタバースの世界、視覚・聴覚の活用）が世界的に普及する（**100年後の姿**）。
- 絵本の主題となっている日本の現場を訪れる（現実の世界、科学、理解）。
- そこで「**災害語り継ぎ**」を体験する（文化）
- これら一連の行為で、文化的幸福感が生まれる。
- 願わくば、**災害伝承ミュージアム**が世界の文化観光資源として認知され、世界の家族、子ども参加体験型のハイカルチャー、ハイスペックな施設となり、豊かな社会創造につなげる（**100年後の姿**）。

期待する災害文化の形成

- 防災絵本の読み聞かせによって、さまざまな教訓が大人から子どもへ、あるいは大人が読んで頭の中の知識が増える(メタバースの世界の拡大)。
- 教訓を知っている大人や子どもが、世界各地にある災害ミュージアムを訪れて、実際に起こったことを理解する(リアルワールドの出来事と認知)。
- あるいは「語り継ぎ」によって、メタバースからリアルワールドに繋がる。

災害文化で何が変わること を期待しているのか(1例)

- 人びとが避難指示が出てもすばやく避難しないのは、咄嗟に「生き物」として本能的に危ないと判断できず、それから少し遅れて知識・知恵で考えると、途端に自動的に「正常化のバイアス」に陥り、結果的に避難しないことになる。



それでは本能に代わって避難するという文化
(日常の習慣：災害文化)をどのようにして創
るのか。

絵本を「創る」よりも
「普及」が難しい

防災絵本による方法の特徴

- ★とくに乳幼児・児童に教育効果があり、それは一生継続する。
- ★乳幼児・児童にとっては実際の体験として受け取られる（メタバースの世界ではなく実世界の出来事）。
- ★絵本による普及のほか、インターネットなどによるデジタル情報の提供、紙芝居などの文化的方法など多種類の普及方法を採用する。
- ★途上国の貧困家庭をターゲットとしたSDG s の実践例となる。
- ★地球温暖化による災害のグローバル化（例えばG7が多発国になる）に対応できる。

災害文化の国際化の実現

- 災害文化は下位文化という欧米先進国の社会科学系の研究者に衝撃を与え、彼らの間違いを正すことにつながる。
- わが国の絵本文化がいろいろな伝達手段によってグローバル化される。
- 絵本による情報伝達が学術的に価値を有するという新たなステージが確立する。
- 日常防災に役に立つ。